

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

クラス授業（45分）では保育・教育現場で使用度の高い歌唱曲の歌唱指導、コードによる伴奏法、毎月の歌として身体表現を伴う曲、手遊び曲を指導する。コード伴奏として「ぶんぶんぶん」「きらきらぼし」の全調奏はI, IV, V, V<sub>7</sub>の伴奏課題として必修である。記譜法を学び伴奏譜が書けるようにする。各先生方の他大学でのピアノの実技指導や個人演奏会、合唱団での伴奏、児童への指導経験を活かし音楽Ⅰと同様、レベルに応じたピアノの個人レッスン（45分）と合同授業を交互に行う授業形態をとる。

個人レッスンでは弾き歌いの曲の学びと音楽実技Ⅰの基礎をさらに深め保育・教育現場で役立つ音楽実技の能力を高める。

### 授業計画

第1回	(クラス授業) ガイダンス, 夏休み課題 (実習用の曲) (学生の進度に応じたピアノの個人レッスン)	
第2回	(クラス授業) 幼児の発達と音楽、手遊び、わらべうた、7コード	(個人レッスン)
第3回	(クラス授業) 「ぶんぶんぶん」の全調課題演習	(個人レッスン)
第4回	(クラス授業) 夏休み課題「ぶんぶんぶん」の全調課題テスト	(個人レッスン)
第5回	(クラス授業) 「動き」を伴う音楽活動	(個人レッスン)
第6回	(クラス授業) コードネーム(m)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第7回	中間実技テスト、手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法	
第8回	(クラス授業) 手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法 (課題提出)	(個人レッスン)
第9回	(クラス授業) クリスマスソングの演習	(個人レッスン)
第10回	(クラス授業) クリスマスソングの演習	
第11回	(クラス授業) I IV V V <sub>7</sub> の和音による伴奏「きらきら星」全調課題の演習	(個人レッスン)
第12回	(クラス授業) 「きらきら星」全調課題のテスト	(個人レッスン)
第13回	(クラス授業) コードネーム(m)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第14回	(クラス授業) (m, aug, dim)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第15回	(クラス授業) I IV V V <sub>7</sub> の和音による伴奏、歌唱曲への応用	(個人レッスン)
第16回	期末実技試験	

### 到達目標

子どもたちとの音楽活動を通し、感性豊かな表現をめざす「音楽Ⅰ」を更に深めることを目的とする。保育実習や保育現場での実践に対応できるよう、使用度の高い歌唱曲の歌唱、伴奏を通して音楽的で感性豊かな表現力を深める。演習にとどまらず、教材研究を深め、どのように各々の教材を保育のさまざまな活動に広げていくかを考える。

### 履修上の注意

遅刻3回で欠席1回となる。合同、個人レッスンいずれかを休むと1回分の欠席となる。クラス授業はM L教室で行う。個人レッスンはグループ全員で受講すること。個人レッスンでは夏休み宿題の実習用の曲の合格、合同授業では「ぶんぶんぶん」I V V<sub>7</sub>「きらきらぼし」I IV V V<sub>7</sub>の伴奏の全調課題の合格を必修とする。

幼稚園免許希望の学生は教育実習Ⅱの派遣のための条件科目である。学生の進度によりシラバスが前後することもある。

### 予習復習

貴重な個人レッスンの一人あたりの時間は短いので、必ず練習をしてきた上でレッスンを受けること。就職や実習で必要とされる演奏力をつけるため毎日の練習を習慣づけること。

### 評価方法

授業の参加状況・授業態度(25%)、全調課題(30%)実技テスト(40%)、提出物(5%)を総合して評価する。

### テキスト

『幼児の音楽教育—音楽的表現の指導—』(朝日出版) ISBN978-4-255-15627-9、プリント配布  
『大人のためのピアノ教本』(ドレミ楽譜) →音楽実技Ⅰから継続、進度に応じ教材を授業内で決定する。